

I 北部九州河川利用協会の中期計画 基本方針

1. 中期計画策定にあたって

(1) 北部九州河川利用協会の活動

- 1 目的
- 2 経緯
- 3 法人改革の経緯

(2) 中期計画2019策定の背景 協会に対する期待とニーズ

- 1 自然・社会環境の変化
- 2 河川行政の変遷
- 3 協会に対する期待とニーズ

(3) 中期計画2019策定の目的

- 1 協会に対する期待とニーズに応える公益・収益の両面からの確に対応
- 2 公共が対応できないニーズへの先行的な対応
- 3 (一社)として5年経過
 - (一社)として5年が経過し、活動の点検、必要な見直し
 - 1. 2. 3を踏まえて、協会の目的を達するため中期計画を策定

2. 協会に期待される役割

視点1

持続可能で活力ある流域社会の形成への寄与

視点2

信頼される河川管理への貢献

視点3

魅力ある協会づくり

3. 役割を実現するための取り組み

- (1) 地域ポテンシャルの発掘
- (2) 河川利用推進に向けての市民サービスを創出しやすい環境づくり
- (3) 流域的取り組み(水共同域)への積極的な支援(連携と課題解決等)
- (4) 会員との連携による担い手の発掘と育成(利活用・水防災・地域づくり)
- (5) 信頼される専門家集団に向けての研鑽と蓄積
- (6) 職員意識改革 トップダウンからボトムアップへ
- (7) 経営の改善 安定的な収益力確保

具体的な取り組み

- ① アンケート等を通じて河川ニーズの把握と分析
- ② かまちづくり支援(情報発信・キーパーソン・次世代・活動費用等)
- ③ 住民による夢プラン等作成支援による地域資源の発掘
- ④ 河川空間の新たな利活用の可能性を生み出す企業等の発掘支援(ミズベリング)
- ⑤ 活動活性化を生み出す報告会等の開催(情報共有と人材交流)
- ⑥ 市民向け講座の継続的な開設(市民大学)による啓発活動
- ⑦ 水共同域として活動を支援(“川を知る(自然特性)”“川の怖さを知る(治水)”“川の恵みを知る(利水)”“川の魅力を知る(環境)”など川の基本情報を提供するとともに、川と人とのかかわりのこれまでの課題から、課題克服(水循環健全化等)の活動につながる情報提供)
- ⑧ 流域的取り組みの支援による流域資源・人材等の発掘と交流の場の創出(都市部と農山漁村部の交流から始まる課題解決)
- ⑨ 情報誌の発刊支援による河川利用啓発の推進(情報共有)
- ⑩ 地域の活力を生み出すインフラツーリズム交流会の開催
- ⑪ 流域資源の発掘(流域の成り立ち、歴史、文化、新たな資源の発掘)
- ⑫ 高齢化社会に向けて自助を助ける共助の取り組み支援(水防災)
- ⑬ 川の活動の担い手となる次世代の取り組み支援
- ⑭ 河川に関する民間研究支援と環境教育・防災教育等の取り組み支援
- ⑮ 会員との連携・協力体制の再構築に向けての意見交換会の開催
- ⑯ 民間による河川維持管理技術の研究による専門家集団の育成
- ⑰ 河川維持管理技術者の確保と実践によるデータの蓄積
- ⑱ 発注者の信頼を得る収益業務の品質の向上
- ⑲ 活発な職場ミーティングの開催
- ⑳ 社会情勢の変化に対応できる体制確立(人材の確保と育成)
- ㉑ 積極的な広報活動(協会の強みのPR)

II 北部九州河川利用協会の主要事業

- 1. 公益事業
- 2. 受託事業
- 3. 研修

III 収支予算・見込み